

平成29年9月22日

市町村老人(高齢者)クラブ連合会長 殿

同役員 各位

一般財団法人 長野県老人クラブ連合会

会長 池上弘祥

全国100万人会員増強運動 ―県下2万人会員増強方針―  
の新たなる取組についてお願い

稔りの秋となりました。

県老連の恒例の市町村老人クラブ連合会ブロック研修会、女性指導者研修会で熱気をおびて開催されました。

その中であって、絶えず頭をよぎるのは、今年で4年次となった会員増強運動の戦略であります。過去三年の増強運動において一喜一憂しつつ、その戦果を何とか生かす方法が無いものかと苦慮しました。

我々も昨年K・J法から見落としがちな気づきを学び、広く深くその方法を探ってまいりました。後は、粘り強く地道に思う路線を突き進むのみと思います。

私の所属する伊那市高齢者クラブ連合会におきましても、今年4月当初、毎週マレットゴルフで汗を流し健康維持に努めている未加入のクラブが33名の会員を擁して新規加入をしました。その平均年齢は74歳で、実に若々しい構成でありました。こういったクラブへの勧誘こそまず、仲間に誘う必要があります。

会員増強運動については、色々実践をさせていただいておりますが以下の事項も参考にさせていただきたいと思っております。

1、『生きがいづくり』(趣味・文化・レク等)、『健康づくり』(健康学習・運動・体力測定等)、『仲間づくり』(例会・声かけ・友愛・親睦等)、『地域づくり』(環境美化・ボランティア・世代間交流等)の「4つの“づくり”」を進めるための増員運動であり、この趣旨のもと、お年を召してもいつまでも健康な会員でいること、会友として止まっていたいただくことが大切だと思っております。

2、会員増強に何か特別の秘策は、どこかにあるのではなく、地道に役員等でローラー作戦を実施して、一人でも多くの会員を抱え込むことが唯一の近道です。

今年は、過去実施してきた好事例を実践するよう粘り強い運動をすすめることから一步を踏み出しましょう。

そこで、次の事項についても進めていただきたいと思います。

(a)、新規クラブの立ち上げ⇒自治会の協力を得ながら、未結成や解散地区へのクラブ新設を積極的にすすめる。

(b)、解散クラブの防止⇒市町村老(高)連の相談機能や後継リーダーの発掘など支援策を強化し解散の未然防止に努める。

(c)、単位クラブの純増をめざす⇒自然減が避けられない組織であるが、それぞれが同世代や同性への勧誘意識を高め、クラブ全体で会員の純増に努める。

困難な問題ではありますが、よろしくご協力ください。